

手術をせずに痛みやしびれを取り除く

変形性膝・股関節症、脊柱管狭窄症、スベリ症、ヘルニアなどにAKA-博田法

望クリニック整形外科

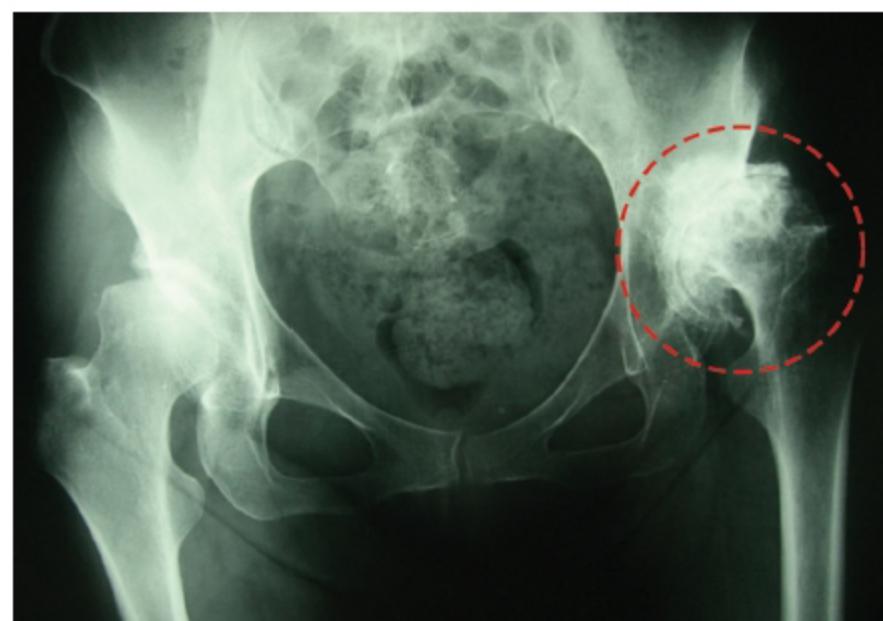
が良くなるということもあるのです。

手術をしなくとも 痛みが消えることがある

変形性股関節症で手術が必要と診断された方が、AKA-博田法(以下AKA)を数回受けて海外旅行でハイキングに行けるようになります。にわかには信じがたいことです。

変形性股・膝関節症で「治療法は手術しかない」とされるのは、軟骨のすり減り(以下、変形)が痛みの原因だと思われているからです。

しかし、手術で症状が改善する方がいる一方で、手術で変形を治しても痛みが改善しない方もいます。また、AKAで治療すると変形はそのままなのに痛み



変形性股関節症に対するAKA治療後の写真。来院時は痛みでほとんど歩けない状態であった。AKA治療により痛みの軽減がみられたため継続していった。現在は、2カ月に1回の治療でほとんど痛みなく日常生活をおくれている。痛みの原因は、目に見える変形ではなく背骨にある関節の機能障害が原因であったと考えられる

痛みやしびれの原因と 関節の機能障害

AKAの開発により、変形性股・膝関節症の痛みの原因の多くは変形そのものではなく、仙腸関節を始めとする関節内部の動きの障害(これを関節機能障害といいます)が本当の原因だとわかつてきました。変形性関節症のほ

か脊柱管狭窄症、ヘルニア、スベリ症など整形外科領域の痛みの原因は関節機能障害が最も多いという学会報告もあります。AKAで関節機能障害を治療すると、多くはレントゲンやMRIに写る異常とは関係なく痛みやしびれを取り除くことができます。(左上、右下画像参照)

画像上の変形、狭窄、ヘルニアなどが原因と診断されても、痛みやしびれの本当の原因は関節機能障害の可能性が高く、まずはAKAの受診をお勧めします。AKAで改善するものは手術が必要になるケースがほとんどです。つまりAKAは痛みやしびれの治療だけでなく、手術の要不を判断する重要な選択肢の一つといえるでしょう。

手術をせずに 日常生活を送る

当院には、痛みやしびれを

痛みやしびれには 手術の前にAKAの受診を

治すために手術が必要と診断された方や、手術後も痛みが改善されなかつた方も多く来院されます。変形性関節症は関節機能障害を再発しやすいため定期的なAKAが必要となり^{※1}、現在約150名の患者さんが治療を受けています。治療を継続している方の多くは痛みが取り除かれ、手術をせずに日常生活を送っています。特に臼蓋形成不全は著効を示すケースが多くあります。

手技のため、技術が十分でないと正確な診断・治療ができません。当院はAKAを中心いて、変形性関節症、脊柱管狭窄症、ヘルニア、スベリ症といった整形外科領域の痛みやしびれに特化して、24年間(1986年1月～2010年12月実績)で約3万1000症例の実績があります。詳しくは当院のホームページをご覧ください。



脊柱管狭窄症に対するAKA治療後の写真。5回のAKA治療で腰痛や下肢のしびれはほぼなくなった。画像上、狭窄症はそのまま残っているため、痛みの原因ではなかったと考えられる。このように腰痛などの整形外科的な痛みは画像だけでは診断できない場合が多く、AKAは診断と治療に必要不可欠であると考えられる

望クリニック整形外科

診療科目：整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科
診療時間：8:30～12:30／14:30～17:30

休診日：日・月・木午後

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷2-4-1
TEL.03-3986-7889 完全予約制・自由診療^{※2}
<http://www.nozomi-clinic-japan.com/>

院長 住田 憲是
東邦大学医学部客員講師 埼玉医科大学客員講師

*1 症状によって異なりますが、通常は3～6カ月を目安に行われます。変形性関節症では痛みが落ち着いたら1～3カ月に1回行われます。

*2 AKAは自由診療です。初診料11,025円、AKA療法9,450円となっています。